

## ＜過去1週間の動き＞

(3月15日～3月21日)

USD/TRY: 14.5300～14.8520

TRY/JPY: 7.95～8.09 (参照値)

過去1週間のトルコ・リラ相場は、15日には一段高が先行したものの、その後はほぼ一貫した軟調推移。5営業日を振り返って、結局、対ドルでは概ね横ばい、対ユーロでは水準を小幅切り下げた。15日のリラ急騰の背景は明確ではなかったものの、敢えて挙げるなら、同日のルーブル急騰に連れた可能性は考えられなくもなかった。前後したルーブル反発は、ウクライナ紛争を巡る漠然とした楽観(注)に背中を押された値動きのように見えた。ポーランド・ズロチやハンガリー・フォリントなどのような、ウクライナ紛争が殊更重石になっていた通貨ならともかく、リラまでもがルーブルに連れ高した背景には、並行した原油価格の急落が、トルコ経常収支改善に資するとの読みがあったのかもしれない。市場の一部には、17日のトルコ中銀金融政策委員会を目前に控えた持ち高調整的なリラ反発の可能性を示唆する声もあったようだが、参加者のほぼ100%が金利据え置きを見込む環境で、思惑も持ち高調整もあったものではないように感じられた。不自然なほどの急騰や、ルーブル上昇をむしろ先取りした値動きは、それよりもトルコ当局による為替(リラ買い)介入の可能性を仄めかせたのではないかと。トルコ中銀金融政策委員会は、予想通り、政策金利(1週間物レポ金利)を14.00%に据え置き。今週は、米連銀公開市場委員会(16日)、英中銀金融政策委員会(17日)など主要国中銀の金融政策動向にも注目が集まり、それぞれ(予想よりも)鷹派/鳩派の傾倒はあったものの、最も意表を突いたのは、欧州中銀だった。理事会(金融政策変更)は予定されていなかったものの、17日、ラガルド総裁、オランダ中銀クノット総裁から、年内(最大2回)利上げの可能性を示唆する発言が聞かれ、ユーロの水準を全般に一段押し上げた。

## ＜過去1週間に発表された主要経済指標等＞

| 月日   | GMT   | 指標          | 期間 | 発表      | 予想*    | 前回      |
|------|-------|-------------|----|---------|--------|---------|
| 3/15 | 8:00  | 財政収支(TRY)   | 2月 | +69.7bn |        | +30.0bn |
| 3/17 | 11:00 | 1週間物レポ金利    |    | 14.00%  | 14.00% | 14.00%  |
| 3/21 | 8:00  | 外国人観光客(前年比) | 2月 | +186.5% |        | +151.4% |

(\*予想はブルームバーグ社予想中心値)

## ＜向こう1週間の見通し＞

(3月22日～3月28日)

USD/TRY: 14.750～15.050

TRY/JPY: 7.90～8.15

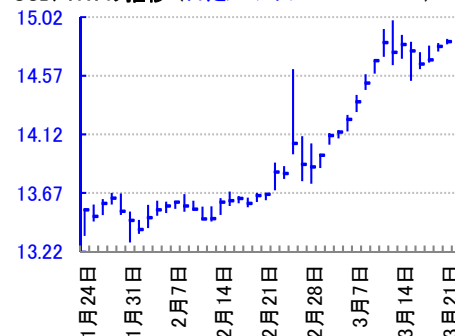
向こう1週間のトルコ・リラ相場は、足元軟調推移継続を予想。17日のトルコ中銀金融政策委員会は、上述の通り、政策金利を据え置いた。足元物価が前年比+54.44%(2月)という水準にあって、もはや、14%の政策金利が12%でも、20%でも大した違いはないようにも思われる。トルコ中銀の声明に読み取れたのは、ベース効果と(ウクライナにおける)紛争の収束が、いずれ物価の頭打ちを促すという「待ち」の姿勢で、そこに能動的なアクションを取る意思は表れていなかった。それよりも重要なのは、同声明が、従来の「(22年の)経常収支は黒字に転じる」との見通しを削除、「経常収支の安定が重要」との表現に差し替えたことだろう。エルドアン大統領の目指す、「低金利と競争力あるリラ(=リラ安)による輸出主導の経済発展」が、既に頓挫しつつあることを、トルコ中銀が認めたに等しい。並行して、気掛かりなのは、市場がどこまで材料視したかは不明ながら、17日、エルドアン大統領が、大統領令により、トルコ統計局の2副局長を解任したこと。解任の理由は明らかでないものの、既に信頼を失いつつある同国経済統計の信憑性を一段と引き下げる出来事と思われた。もう一点注目しておきたいのは、12月20日にエルドアン大統領が発表した為替差損補填リラ預金の3ヵ月物が、これから順次満期を迎える事実。12月22日～31日の為替転換レート(-14%水準)は、平均すると12.1562(14.1351)で、トルコ中銀が約束通り為替差損を(リラで)補填するのか、約定期限を迎えた同預金保有者のどれだけが、再び同預金に預けるのか、(外貨預金のような)その他金融商品に乗り換えるのか(データが公表されることを前提に)注目しておきたい。

## ＜向こう1週間に発表予定の主要経済指標等＞

| 月日   | GMT  | 指標    | 期間 | 発表 | 予想* | 前回    |
|------|------|-------|----|----|-----|-------|
| 3/25 | 7:00 | 設備稼働率 | 3月 |    |     | 76.6% |

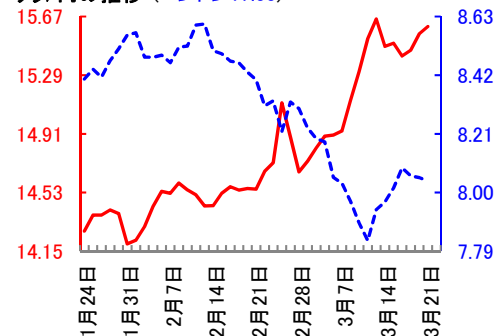
当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。

## USD/TRYの推移 (日足/ロンドン 7:00～17:00)



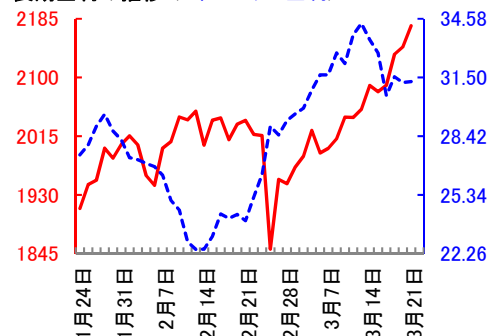
## バスケット/リラの推移 (トルコ中銀公示)

リラ/円の推移 (ロンドン17:00)



## 株式市場の推移 (ISE 100種指数)

長期金利の推移 (5年スワップ金利)



(資料: トルコ中銀/トムソンロイター/ブルームバーグ)

## トルコ関係主要経済指標

|              |    |          |
|--------------|----|----------|
| 1週間物レポ金利     |    | 14.00%   |
| 成長率(GDP/前年比) | Q4 | +9.1%    |
| 失業率          | 1月 | 11.4%    |
| 消費者物価(前年比)   | 2月 | +54.44%  |
| 鉱工業生産(前年比)   | 1月 | +7.6%    |
| 小売売上高(前年比)   | 1月 | +7.9%    |
| 貿易収支(USD)    | 1月 | -10.26bn |
| 経常収支(USD)    | 1月 | -7.11bn  |

(注)「停戦合意に向けて前進があった」「中国が停戦交渉を仲介する」といった観測に加え、ゼレンスキー大統領が「NATO加盟を断念した」と述べた(8日の時点で聞かれた観測の焼き直し)など